



あさ風
2013.秋冬号



サッカーは
少年を大人にし
大人を紳士にする
(デットマール・クラマー)

2013.11.25 発行

スーパーエイジサッカー大会イン刈谷



大会開催の裏舞台は

『お・も・て・な・し』という言葉が流行になる各種スポーツ大会の開催。開催までに、また開催中、開催後も主催者のみなさんのご苦労はひとしおのものと思います。今回は、第二〇回を迎えるスーパーエイジサッカー大会イン刈谷の様子を裏舞台も交えてご紹介いたします。

刈谷の大会は今年で三回目の取材です、今年は台風接近という中での開催でしたが、その暑さは真夏並みでした。九月十四・十五日の二日間、刈谷市サッカー連盟の主催で刈谷市総合運動公園で、開かれました。参加チームはベテランクラスとロイヤルクラス合わせて三十二チーム。今回も「あさ風」のサポーターや寄付者のみなさんへのご挨拶もかねて、天然芝のロイヤルゲーム会場を中心取材いたしました。

さらに、写真の提供やご説明を快く引き受けてくださった刈谷大会事務局の榊原卓さんとのやりとりを記事にしてみました。

刈谷のスーパーエイジサッカー大会は、第一回目名古屋500クロウズクラブさんが企画し、会場は刈谷市が芝のグラウンドを三面提供できる好条件だったので、刈谷市の体育課に申し入れて実現まで漕ぎ着けたそうです。

その後、刈谷市サッカー連盟が主

催するようになり、今回20回の記念大会まで来たそうです。

二年前、刈谷の大会に出かけた時は、バスの関係で開催時刻よりかなり早く着きました。その時にグラウンドでは中学生たちがプレーをしていました。今年初めて分かったのですが、この大会は刈谷市サッカー連盟総出の開催で、「中学校部会」の中学生が大会初日の土曜日の朝八時三〇分に集合しピッチを作るそうです。その後、開催時間までめったに使用できない芝生で練習試合をするそうです。このように中学生もシニアたちも一緒に大会を作っていくような交流はいいですね。今も、元気にプレーしていた中学生の姿が思い出されます。

刈谷の大会ほど本部がにぎやかな活気のあるところはないのではないのでしょうか。参加チームが多いこともあります。この大会にはMVPがあり、一つの試合ごとに本部で表彰されます。(後ほど説明します)また、本部での冷たいお水の供給があります。特に今年は二十周年ということで「二十年連続出場」の方を表彰されたそうです。その様子を頂いた写真をもとに見ていきましょう。



写真の「シニア部会」は、当日は

まず、飲み物、パンフレットやお弁当の確認や準備をします。参加チームや人数が多いので本部の机の上はパンフレットが山のようになっています。本部席がグラウンド(三面)全部が見渡せる場所にあるのでいいですね。さて、ここで大変なのがお水の供給ではないでしょうか。お水はポカリスエットを冷やしたものだと思います。その量は、榊原さんからの情報によると

【2日間でポカリスエットを「10L用×10袋のセットを2セット」購入、金額はネットで最安値の6,300円×2セット＝12,600円です。水は18個×420円＝7,560円

でした。コップも用意していますが何故かしら段々、数が減っていきます】という事です。選手のみなさんは自分の飲み終えたペットボトルでお水をもらいにきていたようです。さらにこのポカリスエットを溶かす水を汲んでくださるのが、主に榊原さんだそうです。この時期、刈谷は暑いので大変なことです。自販機もありますが、グラウンドの近くに水の供給場所があるのでみなさんが便利に使っていました。

さて、もう一つこの大会の特徴は、試合ごとのMVPがあることです。もちろん大会の記録にも残ります。第1回目からあるそうで、名古屋500クロウズクラブの柴田正康さんは

【MVP選出は名古屋500クロウズクラブがスーパーエイジサッカーを立ち上げた第1回からの恒例行事です。お金が無い中で、何か喜んで貰え、励みになることはないかと皆で知恵を絞った産物です。】

と語られます。大会に参加された方は、会場にラッパの音が聞こえるのをご存じと思います。MVPを祝福するラッパでゴムの風船を押してパフパフと鳴らすものだそうです。基本的にはMVP

は勝利したチームのキャプテンの意向に従い選出します。できるだけ皆さんの写真を掲載したいのですが、雰囲気がよくわかる何枚かを掲載いたします。



二日目、九月十五日は大型台風の接近。開催が危ぶまれました。しかし、どうもこの地域を風雨が避けていったようでした。こんな言葉も「高血圧が高気圧に勝つ」(笑い)さらにスーパードロイヤルパワーを感じさせる「誰もが、暴風雨の中での大会(・・でも、きっと誰かが、飛ばされるまで止めんだろうなあ(・・))」を覚悟して集合(・・)の言葉。そう、まさに高気圧が負けたのです。



京大K I U川野眞治さん撮影

前夜は各チーム、反省会で盛り上がったはずですが、そのアルコールも飛んで行ってしまったように、みなさん元気です。着ぐるみこそきていませんが、なんとも化け物のようなパワーです。



ゲームの安全を見守ってくださいます

刈谷市シニアサッカー有志のみさんの休日をさいてボランティア活動です。無事終わって当たり前の評価の大会開催。ずっと関わられた方がいたら、それこそ皆勤賞ではないでしょうか。戦い済んで日が暮れてではなく、さらに備品撤収隊があるそうです。



草サッカーの原点は、まず楽しいこと、そして芝から盛り上がっていくような(草の根のような)パワー。それが人々にサッカーを楽しませ、酔わせることになるのではないのでしょうか。「あさ風サッカークラブ」の今後の方針に頭を痛めている折、この刈谷の大会の記事を書いています。関係者の方の、ブログを拝見しながらこちらもとても楽しくなりました。ノリノリで書く感じの記事でした。参加チームを増やすことは、どの大会主催者においても考えることかもしれません。そのために、最近参加費用の一部を負担したり、その他諸々のお楽しみも付けている大会もあるようです。大事なことは、主催者側と参加者とグラウンド(芝)と、そして今回のようにお天気まで巻き込んで、大会を作り上げていくことではないでしょうか。最後はこんなコメントで終わります。「我々は、他の大会運営は存じ上げなくて 手探り、手作り、手弁当の田舎モンの大会です。毎回、楽しそうに、でも局面では学生時代に戻り、激しく、真剣にサッカーに打ち込んでいる、少年のような『オールドボーイ』を拝見するたびに、「サッカーやって良かった」と思って思います。皆様は我々の憧れであり、目標です(榊原 卓)」